

第7次長期5か年研究推進計画における

北海道のへき地・複式教育の探求の過程

実践研究のまとめ

「自ら創造的に学び 豊かな心でたくましく郷土を拓く子供の育成」

～ へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かし、一人一人の児童生徒に

「新たな時代を生き抜くための力」を育む学校・学級経営と学習指導の充実を目指して ～

(平成16年度～平成20年度)



北海道へき地・複式教育研究連盟

第7次長期5か年研究推進 実践研究のまとめ

目次

- あいさつ（巻頭言）委員長 梅 木 登喜雄
- 発刊にあたって研究部長 岩 淵 明 男
- I 第7次長期5か年研究推進計画の概要
 - 1 計画策定のために…………… 1
 - 2 計画策定の基本方針…………… 15
 - 3 研究主題…………… 17
- II 第7次長期5か年研究の各大会の成果と課題
 - 1 第53回 釧路大会の成果と課題…………… 21
 - 2 第54回 後志大会の成果と課題…………… 27
 - 3 第55回 根室大会の成果と課題…………… 33
 - 4 第56回 空知大会の成果と課題…………… 39
 - 5 第57回 檜山大会の成果と課題…………… 45
- III 典型・定型となる実践例
 - 学校・学級経営の充実・深化
 - 1 確かな教育理念と特色ある教育計画の創造…………… 51
 - 2 開かれた学校・学級経営の創造…………… 54
 - 3 豊かな心を育む教育活動の推進…………… 63
 - 4 校内研究と共同研究の充実…………… 74
 - 学習指導の充実・深化
 - 5 個性を生かす指導計画と評価の改善・充実…………… 77
 - 6 学習内容の改善・充実…………… 86
 - 7 学習指導過程の改善・充実…………… 95
 - 8 指導方法の改善・充実…………… 103
- IV 北海道へき地複式教育実践研究発表大会の記録
 - 1 実践研究発表大会の趣旨と経緯…………… 107
 - 2 実践研究発表大会の成果と課題
 - (1) 第20回教育実践研究発表大会…………… 108
 - (2) 第21回教育実践研究発表大会…………… 112
 - (3) 第22回教育実践研究発表大会…………… 116
 - (4) 第23回教育実践研究発表大会…………… 120
 - (5) 第24回教育実践研究発表大会…………… 124
- 研究推進委員一覧
- 編集後記・編集委員一覧

本書の発刊にあたって

北海道へき地・複式教育研究連盟

委員長 梅木 登喜雄

北海道のへき地・複式教育の実践研究の成果として、今年度で最終年次を終える第7次長期5か年研究推進計画に基づく「実践研究のまとめ」を発刊することができました。作成に携わった研究推進委員の方々はもちろんのこと、この5年間の研究を支えていただいた各地区のへき・連の皆様へ改めて感謝を申し上げます。また、当連盟の研究を常に温かく、ご指導・ご支援を賜りました北海道教育委員会と各教育局、更には各市町村の教育委員会、関係機関の皆様へ衷心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、第7次の長期5か年研究推進計画は、平成16年の釧路大会より始まり、今年度の檜山大会をもって終了するわけではありますが、この一つの区切りは、新たに始まる平成21年度の新学習指導要領の移行措置の始まりでもあります。社会的には、世界的な経済不況によるしわ寄せが日本の経済にも大きな影響を及ぼす等、かつてない多難の時期を迎えております。このような時期ではありますが、人の心を育てる教育の仕事においては、子ども達に明るく、希望に満ちた、夢もてる存在でありたいと願っています。

教育改革の急速な流れの中で、新たな教育への取り組みが新学習指導要領の指針をもって進められています。四月からの移行措置をはじめ、新たな教育課程の編成を通して、各学校が動き出しています。その方向と内容につきましては、基本的な理念である「生きる力」の育成は継続され、新たに盛り込まれた内容と授業時数の増加が特徴的であります。

このことを受けて、私ども道へき・複連といたしましても第7次の研究推進計画の策定時に基本とした考え方は変わらないものと押さえています。今後も、新たに取り上げられた内容と時間数等の調整を図りながら、「生きる力」の育成につながる「確かな学力」の育成と「豊かな心」の醸成を図りながら、「健やかな体」をもつ子ども達の育成に努めたいと考えます。

組織的に大変厳しい状況が続きますが、へき地・複式教育を取り巻く環境が改善されているわけではありません。加速する統廃合の流れの中で、その流れと共に流してはいけないものをへき地教育に携わる教師は肝に銘じなければならぬように思います。目の前にいる子ども達の教育を保障する唯一の担保者として尽力することが私達の責務であります。その立場に立って、今後も実践研究の輪を広げ、全道が一つとなって研究の充実と発展に努める所存であります。

第7次長期5か年研究推進計画「実践研究のまとめ」発刊にあたって

北海道へき地・複式教育研究連盟

研究部長 岩 淵 明 男

平成20年度に開催された、第57回全道へき地複式教育研究大会檜山大会をもって「自ら創造的に学び 豊かな心でたくましく郷土を拓く子供の育成」を主題とする第7次長期5か年研究推進計画が終了いたしました。

この間、第53回釧路大会、第54回後志大会、第55回根室大会、第56回空知大会、そして最終年度となる第57回檜山大会と、それぞれが現地実行委委員会中心に各地区の研究主題の究明に努め、また各地区の教育課題の解明・解決と重ね合わせて特色ある大会を運営し、年度を追ってその成果と課題の継承・発展が図られてきました。

北海道へき地・複式教育研究連盟といたしましても、各年度ごとに大会の成果と課題を明らかにして、本研究連盟の特色である「長期・課題別・共同研究」の体制を維持し、開催地スタッフを中心とする全道の会員の情熱に支えられ、研究主題に基づく2分野8課題の解明のための理論の構築と実践・検証に努めてまいりました。

こうした経緯を踏まえ、各地区の代表からなる道・へき複連研究推進委員会では、第7次長期5か年研究推進計画に基づく各研究大会での成果をとりまとめるとともに、典型・定型となりうる実践や理論を集約し、来年度から始まる第8次長期5か年研究推進計画への継承と発展を期して、『実践研究のまとめ』を発刊することといたしました。

内容としましては、7次長計の概要、第53回釧路大会から第57回檜山大会までの各研究大会における成果と課題、2分野8課題における理論の具現化を図る典型・定型となりうる実践例、そしてこの間の「北海道へき地複式教育実践研究発表大会」の記録及び成果と課題を、研究推進委員会で分析し掲載することといたしました。

今、へき地複式校も全道的に統廃合や極小規模化、さらに児童減少による単式校の複式校化が進み、これまでの教授法や実践理論が通用しにくい学校が増えています。また、これまで複式指導の経験のなかった教員が初めて複式学級の教壇に立たなければならないケースも増えてきています。これらのことから、この「まとめ」が複式教育の新たな「手引き書」としての機能を果たすことも考慮して、全道各地の会員の優れた実践を盛り込んでおります。

次年度からいよいよ「第8次長期5か年研究推進計画」がスタートします。各地区において8次長計の実践研究が円滑に進められるよう、これまでの成果や課題をまとめたものですので、地区ごと・学校ごとに大いに活用していただき、これからのへき地・複式教育のより一層の充実発展に資することを願っております。

終わりにになりましたが、全道各地から参集し「実践研究のまとめ」携わってこられた研究推進委員各位、惜しみないご協力を賜りました各地区へき・複連、資料等を提供していただきました関係各機関・団体に厚くお礼を申し上げ、発刊のご挨拶といたします。